

カトリック 仙台教区報

2004年3月7日 No.156

発行
カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

四旬節を迎えて

仙台教区 司教 溝部 脩

今年も四旬節の季節になりました。四旬節は典礼暦年の中で一番大切な季節です。それは何よりも神様が人間にすべてを与えつくしたということを表しているからです。四旬節中特に十字架が強調されます。40日間神様がどのように人間を慈しみ、救いの手を差し伸べたのかを教会は信者に黙想させます。十字架の道行きや、聖金曜日に行われる十字架礼拝などがその良い例です。

またこの時期には断食を義務付けています。いまさら断食などと反論する方がいるかもしれませんが、宗教にとつて断食はとても大切な業なのです。四旬節には大齋といつて断食が信者に義務付けられています。成人の信者、厳密には18歳から59歳までの信者はこれを行うことが勤めです。大齋とは一日に一食だけ普通に食べることで、他の二回

は軽い食事ですませることで、要は、断食を通して主を思い、救いのみ業に与ることです。これは18歳にならなくてもできますし、60歳を超えても十分できるものです。決まりというより、その精神

断食以上に大切なのは、愛徳の業です。四旬節には特にそれを何かの形で表すことが求められます。四旬節の特別献金などもその良い例です。これもただ献金すれば良いものではありません。自分の身を削った献金であることが大事です。全く自分に痛みがない献金はさほどありがたくありません。



五戸教会の聖家族像

「あり余っているものの中から」ではなく、自分に必要なものの中から割いて渡すことに意義があります。四旬節の間、甘いものを食べないとか、アルコールを控えるにするとか、その他の断食の方法がありますが、そこで節約したものを必要としている人々に渡すのです。四旬節の献金がこのように心のこもったものであれば、教会は恵みで充滿することでしょう。

よりよき四旬節を迎えるべく、お互いに祈り合い、助け合い、励まし合っていくように致しましょう。

塩と光

パウロは、信仰の原点が何であるかを教えます。「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによつて始まるのです」(ロマ書10・17)。

信仰の生き方とは、日々みことばに聞き従うことに他なりません。▼教会の教えを、知的に理解するだけでなく、信仰の基本は、神に聞くことなのです。なぜなら、信仰のいのちは、みことばを生きたることによつていただく神のいのちだからです。「耳を傾けて聞き、わたしのもとの来るがよい。聞き従つて、魂にいのちを得よ」(イザヤ55・3)。▼聖書において語られているすべてのみことばは、キリストにおいて一つに統合されていると言えましょう。「神は、かつて預言者たちによつて、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られました。この終わりの時代には、御子によつてわたしたち語られました」(ヘブライ1・1・2)。

▼イエスの語られたことばは、すべて御父のおことばです。「わたしは自分勝手に語ったのではなく、わたしをおつかわしになった父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったからである」(ヨハネ12・49)。

(博)

司教年頭書簡をめぐる

2004年の年頭にあたり、溝部脩司教は「霊的刷新を目指して」と題して年頭書簡を発表された。信徒の皆さんはそれぞれすでに読まれ、話し合われていることでしょうか、次の三人の方々にご意見ご感想などを伺ってみました。

書簡全体に対しての感想

今年の司教書簡をお読みになつて、全体的な感想からおきかせください。

北澤浩美(原町教会) 個人

の信仰の在り方がそれぞれ異なるように、書簡の受けとめ方も教会によってかなり異なるように感じられます。この書簡を理解し既に実行している教会もある一方で、この書簡に書かれてあることがどんなことなのかをまず理解するところから始めなければならぬ教会もあるでしょう。私は



北澤浩美さん

教区全体が足並みを揃えるためにはどうしたらいいだろうかをまず考えてしまいました。私はそのことをいちばん大事にしたいと願っています。

Sr. 太田妙子(聖ウルスラ会)

書簡を読んでいて、過去に学校で行われるミサとみことばの祭儀はどこがちがうのですか？との質問を受けたことを思い出しました。まず、ミサの大切さと、ミサと集会祭儀の区別をしつかりと理解することが必要なこと

だと感じさせられました。今回一に考えられているところもあるので、司教様の書かれたことを理解



Sr. 太田妙子さん

するところがあつて求められていて、思いました。また、共に福音を読みそれを味わうことから出発した一人として、信仰に生きる者として歩み続ける努力が求められていることをあらためて認識しました。司教様が書簡の終わりに、『信頼して自分たちでできることは何かをしつかり理解し、共に手を取り合つて進むことにならぬのが印象的でした。』

佐藤正一(元寺小路教会)

司教様は毎年の年頭書簡を通して神の民の集いである教会は、信徒一人ひとりがどのよう自分の召命を生きるかを自覚し、その信仰によって培われた心を持つて、真の信仰共同体に育成されること、さらに刷新されるようにと強調されてきました。私たち信徒もこの呼びかけに応え

るべく、神の祝福を願いながら、さらなる努力と工夫が必要かと思ひました。

信徒の召命と使命

司教様は、教会は信徒と司祭の双方がそれぞれ異なった役割を担っているところであり立っていると言つておいてどうですか、この点に



佐藤正一さん

各自の召命を理解し自覚することを再確認させられましたね。北澤 福音を遠い過去のこととして受けとめるか、今現在私たちの力の源泉となるものとして受けとめるか、その姿勢によつて信仰者としての生き方がかわつてくるように思ひます。私たちはもちろん後者としてより強く受けとめるべきですね。

Sr. 太田 信徒一人ひとりが

各自の召命を理解し自覚することを再確認させられましたね。

北澤 福音を遠い過去のこと

として受けとめるか、今現在私たちの力の源泉となるものとして受けとめるか、その姿勢によつて信仰者としての生き方がかわつてくるように思ひます。私たちはもちろん後者としてより強く受けとめるべきですね。

佐藤 特に信徒の役割ですが、

信徒はだれでも洗礼と堅信の秘跡を受けることによつてキリストの祭司職に与つて、忘れるはならないと指摘されています。ですから、信徒は司祭より秘跡の執行を通していただいた神からの恵みを人々にもたらし、自分だけが救われるために教会にきているのではなく、人々のために祈り、人々の悩み苦しみを神に伝え、その癒しを求め、教会にきてい

いました。

信徒の共通祭司職と司祭の役務的祭司職

司教様が言われる信徒と司祭の祭司職についてどう思ひますか。

北澤 日常生活の中でつい忙

しさにかまけて、祈るための時間を十分にとれないというのが現状ですが、信徒が「祭司」として生きるためには、やはり祈ることが肝要なのではないでしょうか。これを失つては「祭司」ではありませぬ。

Sr. 太田 私たちキリスト者

は毎日の生活の喜びや苦しみを主の十字架に合せて捧げて生きてゆく。教会は信徒と司祭から成り立っています。信徒は教会の内部から働きかけ、社会を福音化します。司祭は、秘跡の執行を通して信徒を助け励まします。司祭と信徒の役割が、まづカトリック教会が成り立っています。ですから、この信徒の共通祭司職と司祭の役務的祭司職に対する理解が肝要です。

佐藤 信徒の共通祭司職の意

味を理解したとき、私たちは司祭のささげるミサに、全身全霊をもつて、喜びや苦しみを含めて与えることに最高の喜びを感じることができるといふこと。

主日の集まりの大切さ

主日をどうとらえたいか。佐藤 主日のミサを十分に準備し、実施することが教会生活のいのちであることは言うまでもない。司祭とその月の初めから綿密に打ち合わせを行い、祭壇奉仕者はあらかじめしっかりとリハーサルをして当日のミサに備えることが大事だと思ふ。

北澤 毎日ミサに与ることが

できる人もいますが、一方では、主日ミサにさえ満足に出席できない人もいます。それぞれが自らの使命を自覚して生活してゆくためにも、典礼への参加を深く感謝しつつ、与ることができない方のためにも祈る必要があると思ひます。ミサに与ることができない人々の祈りによつても、教会が支えられているからです。

Sr. 太田 世界中で捧げられ

ている主日のミサで、同じ神のみことばで私たちが養われているという現実が気付くとき、そこに、神秘さと神の偉大さに驚かされます。だから、私たちは主日のミサには生き生きと参加する必要があります。

司祭不在の主日の集会

どの教会でも主日毎にミサが行われているわけではなく、いくつかの教会では集会祭儀が行われていますが、これについてはどのように思ひますか。

Sr. 太田 仙台市内の教会に

属する信徒は交通機関の利便さや距離の面からも、どうしてもミサに与りたいと望むなら、カテドラルのミサに与れるでしょう。しかし、他の教会では集会祭儀が月1回程度行われる場合

があります。将来の司祭の高齢化と減少からみてその回数はふえると見込まれます。ミサとの違いを明確にして、きちんと集会祭儀に参加できるように準備をすすめるなければならないでしょう。一方で、現在の小教区制度を見直すことも必要なのではないでしょうか。

北澤 教会によって、集会祭儀について受けとめ方が異なることがないように、司教様の指針ができるだけ具体的に詳しく信徒に示されることを願っています。県レベルでの研修会は大

《年頭書簡要旨》(一線は編集部)

仙台教区にとつての緊急課題は、信仰共同体を育てる必要性と教会の刷新の二つです。これの解決に至る道は、福音を読み、福音を通して教会の一致を保つ以外にはありません。今、信徒一人ひとりが、いかに自分の召命を生きるかが問われています。

一、信徒の召命と使命

教会は信徒と司祭から成り立っています。信徒はパン種のように社会の内部に働きかけ、社会を福音化します。司祭は、秘跡の執行を通して信徒を助け励まします。司祭と信徒の役割があいまってカトリック教会が成り立っています。

信徒の共通祭司職と司祭の役割的祭司職に対する理解が肝要です。この秘跡を通して私たちは、罪から解放され、新しい自分に生まれ変わります。カトリック教会がミサを大切にできた理由がここにあり

切ですが、県を超えた教区レベルでの研修会にも参加できるように柔軟に対応できるようにしてほしいものです。

佐藤 元寺小路教会が集会祭儀を始めたのは昭和63年9月からで、15年前になります。司教様はいつも司祭不在が250年間も続いたキリシタン時代を語られます。私たちはいかなる非常事態がきてもいいように備えておくべきでしょう。

教会刷新の原動力として

司教様は司祭召命を促進するために、青年の活動を活発化します。

二、信徒の共通祭司職と

司祭の職務的祭司職

私たちキリスト者は、毎日の生活の喜びや苦しみを主の十字架に合せてささげ、キリストの祭司職に与ります。父なる神はこのいけにえをご覧になり、必要な恵みを与えてくださいます。この意味で私たちは祭司であり、これを信徒の共通祭司職と呼んでいます。

司祭は職務的祭司職によりミサをささげ、キリストと共に全人類を喜び、苦しみを含めておん父に捧げます。

三、主日の集まりの大切さ

主日は、神の言葉を聞き、ミサをささげ、神への賛美に生きる日です。主日のミサをいかに準備し、実施するかは教会生活のいのちです。教会は主日の礼拝にこそ全力を注ぐべきです。その際、信徒と司祭はそれぞれの役割を自覚しなければなりません。ミサを司式できるのは司祭のみですが、信徒は聖歌、侍者、朗読奉仕等で積極的に典

たいと言われておりますがこの点はいかがですか。

Sr. 太田 これからの教会は青年に期待するところ大です。

青年活動に活気を取り戻すために力を入れて支援してゆきたいとつくづく思いました。

北澤

長い間には、信徒が従順の徳を求められ、司祭の判断にのみ頼らざるを得ないような状況に置かれたことも過去にはありました。ですから、ここで

「刷新」という言葉の受けとめ方を誤ると、間違つた方向へ進んでしまいかねないという危惧

四、司祭不在の主日の集会

仙台教区では、司祭の高齢化と減少が顕著になり、主日のミサが困難な状態も起きています。信徒は司祭が不在でも、主日に集まつて礼拝を捧げることばを聞く必要があり。教会はこのような場合を想定し、信徒による集会祭儀を勧めてきました。集会祭儀は信徒が自分の祭司職を果たすために必要なことです。どの教会においても、主任司祭と信徒がしっかりと話し合い、集会祭儀を行えるよう準備を始めてください。ただし、ミサと集会祭儀は厳然と区別されるべきです。集会祭儀はみことばの祭儀であり、ミサだと思わせる態度や言葉は避けられなければなりません。その理解の上で聖体が配られることが条件です。

五、教会刷新の原動力として

をいなくともあります。ですから、刷新の原動力は信徒全体にあり特に青年に期待されることではあります。温故知新、伝統の中から学びうるものも多くあることを肝に銘じて着実に歩むことも考えなければなりません。佐藤 司祭は教会共同体の中からはか生まれてきません。司祭召命を促進するためには、青年活動を活発化して信仰を深めて行くことが大事です。それは何と言つても家族共同体が問題になってきます。2001年 信徒は信仰体験、人生体験が豊富であり、教会刷新の原動力です。今、司祭減少をばねに、新しい教会の在り方を構築する時期です。司祭不在の集会祭儀は教区の活性化を推進することでしょう。ただ、いかに信徒の時代であつても、秘跡を執行する司祭は必要です。司祭は教会共同体の中からか生まれてきません。司祭召命を促進するためには、青年活動を活発化し、信仰を深めてゆくことが大切です。

おわりに

教区が危機的状況を脱するには、司祭と信徒がそれぞれの役割を最大限に生きること、これに尽きます。決して悲観的になつてはなりません。神は必ず私たちの教会を守り発展させてくださいます。神を信頼し、私たちにできることは何かを考え、共に手を取り合つて歩みましょう。

の年頭書簡で司教様は、神の前庭に家族全員で祈るときに真の家庭の一致が生まれます、と指摘されたことが思い出されます。

最後に、司教様の今年の書簡を読まれて、これからみなさんはご自分が置かれた場所ですどんな生き方をしたいとお考えになりますか。

北澤 司教様がおっしゃるように、まず祈ること、聖書を毎日読むこと、この二つを大切に、信徒としての基本に立ち返りたいと思います。そして、典礼を大事にすること。教会が弱者の声に耳を傾けるだけにとまらず、かれらの「叫び」を共にする原動力となつていくことを願っています。

Sr. 太田 まず出発点である福音を読み、味わう機会を家庭、教会、学校、社会の中に見つけること。各自の置かれた場所、できることから始められたらいいなと思います。

佐藤 真の信仰共同体を育成するためには、司教様は福音を読み、福音を通して教会の一致を保つ以外にないと示唆されています。



朝拝会全国連合第33回年頭集会

超教派のキリスト信者で組織する「朝拝会全国連合」の第33回年頭集会は1月23(金)〜24(土)日の両日、郡山市で約百名の参加者を得て開催された。

この大会に参加されたカトリック郡山教会司祭ミシエル・ガリエピ神父から大会の様子が寄せられた。



開会礼拝では賛美歌斉唱の後、私が「平和を作り出す祈り」をテーマにメッセージを述べた。その中で、私は「キリスト教の各教派や諸宗教との対立や無駄な論争を乗り越えて、同じ心で今の世界の本当の平和を祈ることは、主が祈られた真の一致への大きな一歩を踏み出すことになります。私たちはイラクや他の紛争地域に派遣されることはないでしょう。しかし、私たちの身近にある教派、諸宗教との対立を超えて祈ることとは、真のエキュメニカルな平和に近づく最高の道ではないでしょうか。キリスト教にとどま

開会礼拝では賛美歌斉唱の後、まず、諸宗教の信仰のあり方と祈り方を尊重し、対話を深めていかなければ、宗教者として私たちの住んでいる社会に平和を築くという使命を果たすことができません。キリスト教の立場を押し付けるのではなく、諸宗教の招きに応える構えも求められています。2年ほど前、立正佼成会から『一緒に平和を祈ろう』という誘いを受けてから『宗教懇話会』が第一歩を踏み出しました。参加者は8名程ですが、各寺・神社・教会を回って、それぞれの習慣に従って祈りをささげています。昨年9月には、約50名の僧侶・神主・信徒がカトリック郡山教会に集

まって、聖歌やアシジのフランシスコの平和の祈りをささげました。」と、経験を交えて、共に祈ることの大切さについて強調した。

キリスト教一致の新年合同礼拝・祈禱会がいつからこの仙台で始まったのかについては別の機会に譲るとして、私が最初に参加したのは1980年代の初め日本基督教団仙台北教会での新年礼拝でした。

キリスト教一致祈禱週間と新年合同礼拝・祈禱会

プロテスタントの教会が会場の時はカトリックの神父が、カトリックの教会が会場の時はプロテスタントの牧師が奨励(すすめの言葉)をすることになっているので、プロテスタントの仙台北教会を会場とする集まりでは叙階されて間もない笹氣直哉神父さんが担当でした。若き笹氣神父の明るい颯爽とした姿は、恐らくはあの第2バチカン公会議の息吹のなせる業であったと思います。この公会議を始めた教皇ヨハネ23世は、回勅『地上の



平和』を著して、冷戦時代の絶望的な閉塞感をうち破り、武器による平和ではなく話し合いによる平和を求めよう、絶望ではなく希望の内に生きるようにと励ましてくれたのでした。この公会議はまた、カトリック教会がキリスト教一致に向けての確かな歩みを進めた公会議でもありました。さて、2004年のキリスト教一致の集会のテーマ『わたしの平和を与える(ヨハネ14:27)』は、シリアのアレッポ市のキリスト教教会(正教会・プロテスタント・カトリック)から全世界の教会に向かって提案されたものです。一月の新年合同礼拝・祈禱会の内容については、時・会場・

奨励の題・聖書朗読箇所・奨励者・参加人数のみを記すことにします。

04. 1. 1 / 日本基督教団仙台東一番町教会 / ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう / イザヤ 55・11 / 佐々木博神父 / 134名

04. 1. 18 / カトリック元寺小路教会 / 教会の一致を求めて / コリント 12・12・13 / 甲原一牧師(日本基督教団宮城野愛泉教会) / 67名

04. 1. 25 / 日本福音ルーテル 鶴ヶ谷教会 / 祈りによる出発 / ルカ 3・21・22 / 吉田隆牧師(キリスト教改革派仙台教会) / 57名

今キリストは、シリア・アレッポ市の兄弟姉妹を通して、私たちが平和のためにともに祈りともに働くよう呼びかけているのではないのでしょうか。

(高梨)



溝部司教小教区を訪問

—一本杉教会—

溝部司教は、信徒とじかに接して交流を深めるために仙台市内の小教区を訪問している。

2月8日(日)は、一本杉教会を訪問。ミサ後椅子を円形に並べて、信徒たちとの対話があった。信徒の意見や質問に答え

ながら司教は次のような主旨のことを話された。

「仙台教区には少人数の教会が多い。これこそ教会が教会である理由を表しているのかもしれない。小さな教会は仙台の誇りである」。一人ひとりが福音のメッセージを世に発信していくことを考える必要がある。教会がしてくれる、神父がして



くれるという考え方を変えてい

典礼の霊性を深める

神学顧問 佐々木博

第二バチカン公会議が、最初に取り組んだのは典礼改革でした。その成果として四十年前に発布されたのが、『典礼憲章』です。これこそ、正に典礼刷新を目指した大切な憲章です。そこでもう一度、典礼活動についての基本的な理解を深めるためのヒントを、数回に分けて説明して行きたいと思えます。

典礼活動の大切さ

教会における典礼活動の位置づけを明確にしました。「典

祭司職に与る

教会の典礼活動は、実はイエス・キリストご自身の祭司職の

イエス・キリストご自身の

職の実践に他なりません。「イエスは永遠に生きておられるので、変わることはない祭司職を持っておられるのです。それです。また、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、ご自分を通して神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります」(ヘブライ24・25)。ですから、典礼は大祭司であるキリストご自身と、その体である教会の共同の活動であります。つまり、洗礼によってすべてのキリスト者は、キリストの祭司職に与るのです。

くことである。自分が伝えていくべきことは何であるか、真剣に考えてほしい」。

教会があつて信徒があるのではなく、信徒があつて教会があることを強調された。

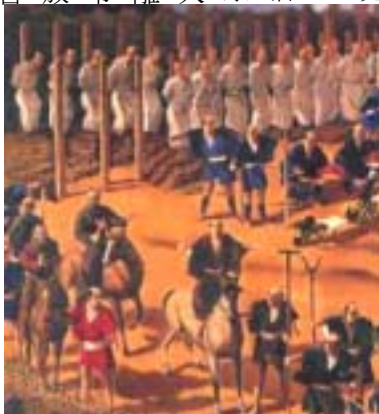
和やかな雰囲気の中にも一人ひとりが自分の信仰を再確認させられたひと時であった。

<シリーズ> 188名日本殉教者列福の推進

—ジョアン原主水—

溝部 脩

原主水は千葉白井城主の子に生まれた。父は小田原の合戦に参加して、戦死。幼い主水は徳川家康に拾われ、小姓として伏見に住んだ。そこで教会の門を潜り、受洗。家康に従って静岡に移った時は個人的な事情もあり、一時教会を離れた。1612年徳川の禁教令が発布され、まず旗本衆が追放された。その中にジョアンも含まれていた。1614年捕まり、安倍川河原で指を三本ずつ切り



【江戸大殉教の図・馬上が原主水】



【原主水の像】

取られ、足の筋を切られて放置された。いつの日か江戸浅草のハンセン病人の中にあり、教会の指導的立場にあつた。1623年捕まり、品川宿の札の辻において、デ・アンジェリス神父、ガルベス神父、その他の信徒とともに火刑にて殉教。彼は終身動きもしないで立っていたが、遂に柱とともに前方に倒れ、手足を伸ばして大地に横たわったままであった。

2004 年度司祭異動

【一】内は前任地
ヨシオク【韓国・大田教区】

司教総代理・事務局長

／平賀徹夫【司教代理・

仙台中央地区】

教区会計／梅津明生

【盛岡地区】

五所川原／渡辺昭一

【宮城県南地区】

盛岡地区(モデラトル)

／土井勝吾【築館・米川・大籠・

新生園】

同／ヨゼフ・フーゲントブレ

ル【宮古】

宮古／(協力)フェリペ・ク

エバス【盛岡地区】

仙台中央地区／マルコ・アン

トニオ・デ・ラ・ローサ【会

津地区】

同／(協力)尹 汝沃(ユン・

代理】

司教館(引退)／村首ステファ

ノ【県南協力】

療養(引退)／吉田昌民【盛岡

地区協力】

離任／フェデリコ・エレラ(メ

キシコへ帰国)【北上】

同／ダビデ・ウリベ(ローマ

へ留学)【仙台中央地区】

同／ミシエル・ガリエピ(東

京修道院へ)【郡山】

新司祭のプロフィール

尹汝沃(ユン・ヨシオク)神

父 1955年7月31日誕生、洗

礼 1984年2月 叙階(韓国、

テジョン(大田)教区司祭)

福岡教区で3年間の宣教司



牧経験
があり、
流暢な
日本語
を話さ
れます。日本への関心は、両親の影響のようですが、詳しくは来日後自己紹介に期待したいと思います。
遠藤周作の小説や森一弘司教の著作を韓国語に翻訳したり、キリシタン史を研究したり、勉強熱心であるだけでなく、今回の転任に際しては、サツピョ(拱橋)小教区の信徒に自分で造ったマリア像をプレゼントするなど、司牧者としても魅力的な方です。

リゲンザ・スタニスワフ神父
1965年1月1日、ポーランドのルブリンという県庁のある町に生まれました。小・中・高等学校を卒業してからドミニコ会に入会、初誓願を1985年8月22日にたてた。PAT大学で修士前期の学位を受け、1991年5月18日に叙階。翌年来日。日本では渋谷教会の助任司祭として働き、修道院長の経験もある。アメリカの教会と学校での経験もつんでいる。劇や映画に興味があり、若者のために働きたいと言っている。
(Fr. トマス)



今年で28回目 ました。

を数える弘前雪 当日は、あいにくの吹雪の
燈籠祭りに、弘前 中、出番まで30分以上も凍
カトリック教会 えていましたが、本番ではし
がメインの大 っかりとハンドベルと聖歌

雪像のモチーフとなりま で開会式を盛り上げました。
した。その開会式の中で、 夜はライトアップされ、雪
弘前カトリック幼稚園の 像の中にも灯りがともされ
年長組の園児が、聖歌2曲 幻想的な雰囲気の中に、祭り
(イエスさまがいちばん、 が進んでいきました。
グロリア)を披露しまし



各地から

青森 五戸教会

五戸教会は、十和田教会の巡回教会です。今からおよそ50年前に民家の一室を借りてケベック外国宣教会のクルノイエ神父様が御ミサを捧げられたのが始まりと聞いています。それから20年近くは、四家族22人と単身者を合わせて30人位の信者がいて、毎週の御ミサには大勢の子ども達も来てそれは賑やか楽しかったことも懐かしい思い出となりました。その後、成長した子ども達も転出したり、古くからの信者さん方も次々と亡くな



られたりで、今では、毎週御ミサにあずかるのは、五戸出身の方と結婚してメキシコから来たマリアさんと私の二人だけになりました。年に何回かは彼女の子ども達も来ますが、普段は二人だけです。ご降誕祭と、ご復活祭には皆で十和田教会に出かけます。

聖堂は、昭和60年に新築した幼稚園の園舎Ⅱ写真Ⅱ内にあり、主日ミサは毎週金曜日(恵みを先に戴いて)午後5時から、十和田から神父様がおいでくださ

います。超ミニ教会ですが、ひっそりと静かな中で御ミサにあずかり、最高に贅沢なときを過ごさせて戴いて、心豊かです。(菊池)

岩手 盛岡上堂教会

この教会は1963年に設立されました。当初は厨川教会という名称でしたが、1974年、盛岡上堂教会と改められました。初代主任司祭は、マンブレ神父様でしたが、1970年帰国されたので、ツゲル神父様が就任され、更に2001年からは、梅津・フェリペ・ララ神父様が三人交替で司牧される形となり現在に至っています。

特記することの無い教会ですが、建物の割には敷地が広く、一部は菜園として、大部分は草地で、ボーイスカウト及びガールスカウトの活動の場として使われています。

信徒は約百名。ミサは普段17名の参加。聖書勉強会は金曜日、通常6〜7名、多いときは10名近くにもなり、長続きしています。

ミサ・勉強会とも、終了後すぐに解散では空しいので、果物・漬物などで短時間のお茶会をし、和やかな気持ちになつて帰れるようにと心掛けています。

庭には大きな実のなる柿の木があり、毎年二百個ほど採れます。干し柿・さわし柿にし、人気をばくしています。また、蕎麦打ちの上手な信者の作った蕎麦



うどんの販売を中心に、干し柿・さわし柿・菜園の野菜などを売るバザーを行っています。更にカ

ナンの園(知的障害者施設)の通信業務の援助、街頭募金への参加などを行っています。(田畑)

宮城 角田教会

角田教会は宮城県の県南にあります。1965年(昭和40年)、今から39年前、児山六七男神父様の努力によって、何もないところから開設されたものです。



門の所に立って教会を訪ねるとき、つましく片隅にある建物を見つけることでしょう。私たちの教会は県南四教会、亘理教会、白石教会、大河原教会、角田教会の共同司牧です。司祭は渡辺彰宏神父、渡辺昭一神父の二人です。ミサの日程や行事等は、四教会の合同会議の話し合いによって決まります。(合同会議は毎月第二土曜日午後2時から)

昨年は微力ながら、仙南で開催された宮城県大会を無事に終わらせることができたことは感謝です。

角田教会の主日のミサは、第一と第三の日曜日午後2時の月二回です。常に共に祈りを捧げるのは5〜6人です。ミサの後聖書の分ち合いをし、お茶を飲みながら談笑して過ごします。小さいながらも信仰の灯火を消さないようにしようと呼びかけています。(馬場)

▼福島 田島教会

ヒマワリ会 ウィリピン巡礼の旅

年前カトリック新聞で、年間6万円あればウィリピンの貧しい学生が、卒業できるので支援して欲しいとの声に、早速援助をはじめました。

援助先は、神戸のザ・サークル・オブ・フレンズといい、西岡さんという方が始められたグループでした。

その後西岡さんと奥様は洗礼の恵みを受けられました。里子達、里親のために祈っている

のです。この会から、福島に支部をといわれ、平成7年にヒマワリ会が誕生しました。

会の名前は、ウィリピンのヒマリノ神父様が来日されて12年間、幼稚園児からヒマワリ神父様と呼ばれていたとお聞きし、ヒマワリの花のように明るい神父様の呼び名はこの会の名前にぴったりと思いい「ヒマワリ会」



歓迎の踊りをする子供たち

としました。

この度、(1月6日〜11日)冬の福島から、南国ウィリピンへ5名で巡礼と視察の旅に行つてまいりました。セブ島ロンダの村長さんは歓迎会で「お金ではなく、共に文化の交流を」と話してくださいました。

ロンダの三つの学校を訪問し、日本から持ってきたお土産を差し上げました。その後、愛徳姉妹会の孤児院、赤十字社、カメル会などを訪問しました。

ヒマワリ会員は里子たちの祈りに支えられて末永い交流を続けていきたいと思っています。(星)

活動紹介

聖パウロセンシオ

ア・パウロ会

現在、同会仙台協議会のメンバーは会長以下7名です。毎月第三土曜日の夕方、5時30分よりカトリック元寺小路教会で例会を行っております。会の活動の主なものは、定期的な施設訪問です。具体的には八木山の身体障害者施設「福寿園」と「第二福寿園」の訪問です。会員がかわ

私の気分転換

弘前カトリック幼稚園園長

二唐昇

昨年4月から「弘前カトリック幼稚園」に勤務し十ヶ月が過ぎようとしています。白雪に覆われた「岩木山」が、生まれ育った町に戻ったことを実感させてくれます。

初めて経験する幼稚園での生活は戸惑うことの連続で、まさに「借りてきた猫」状態であったのが最近ようやく「飼い猫」になってきました。

約50分の電車通勤も生まれて初めての経験で、この時間が、私にとっての「気分転換」の時間になっています。特に一日の仕事が終わっての帰りは、

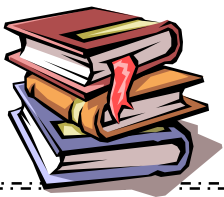
るがわる訪問しています。代筆をしたり、お話をしたり、お買い物のお手伝いなどです。

全国的には「日本SS・V・P」。世界的には「世界SS・V・P」があり、7年に一回くらい全世界大会があります。筆者も30年ほど前のカナダ・モントリオールでの大会に出席したことがあります。

今年6月、東京代々木のオリピック村の跡で、全国大会があります。現在の会員は全員出帰りは、好きなMDを聴きながらの読書で過ごします。

「Feel」・「Image」・「カーペンターズ」などはよく聴きます。最近読んだ本は、司馬遼太郎の「竜馬が行く」全8巻です。幕末から明治維新にかけてどんなに多くの若者の血が流されたのかを、恥ずかしながら初めて知りました。革命により新しい時代を作るにはどんなに多くの犠牲・死が求められるのか。その痛みが大きさに愕然としてしばし言葉が無かった。

こうして青森駅につくまでの時間を過ごしながらの幼稚園通いが続いています。



席の意気込みで頑張っております。

入会ご希望の方は、TEL 22-3060 会長宅宛にお電話をお願いします。新人の方の入会を切に望み発展を祈りつつ、お知らせいたします。

(会長 早坂養吉)

聖パウロ女子修道会

修道院紹介

仙台修道院

私たちにあって、2003年は本会の創立者ヤコブ・アルベリオーネ神父の列福という特別な恵みの年でした。創立者は、

神からの特別の光に照らされて、新世紀の人々に、新しい時代に

応じた新しいメディアを使って福音宣教をする本会を創立しました。

1948

年、4人の

宣教女の来

日によって、

日本における

聖パウロ

女子修道会の歴史が始まりました。



た。その9年後の1957年、仙台修道院が堤通り東の借家で設立。翌年、元寺小路教会の敷地に移転し、1991年に宮城野区に移転し、現在に至っています。

初めは養成院を兼ねた修道院でしたので、若いシスターたちが団体宣教(教会、学校、幼稚園、会社など)、個別宣教(家庭訪問)、展示会などや書院で宣教活動をしていましたが、養成院が東京に移り、現在、7人のシスターで、宣教活動を続けています。

元寺小路教会の中にある「聖パウロ書院」は写真Ⅱで2人のシスターが、直接的なコミュニケーションによって、また本やCDなどのメディアを通して、多くの方々にキリストを伝えるために奉仕しています。修道院内では、「祈りの集い」をしたり、ホームページ「ラウダーテ」の執筆、会の歴史の資料収集などに携わっています。

日々、聖体祭儀、みことばの黙想、聖体訪問に養われて、聖パウロと、創

寿庵祭のご案内

カトリック水沢教会

今年の『春の後藤寿庵大祈願祭』は「先人の信仰に学び、信仰を見つめる」ことを心のテーマとして、左記のとおりおこないます。先人の偉業を讃え、一人ひとりに語りかけてくださる神様を感じる。ひと時、となりま

日時 5月23日【日】

ミサ 午前10時より

場所 水沢市 福原

寿庵廟前

講話 溝部脩司教

テーマ「ペトロ・カスイ岐部と

寛永年間の水沢地方」